地域学習（花の虹タイム）の実践等

取組のあらまし

取組団体　岩手県紫波町

取組内容　紫波町立日詰小は学校運営協議会を設置し、地域と一体で「花の虹タイム」等の学習を展開。大学生や商店街とも連携し、児童の自己肯定感や地域愛着を向上させ、地域ぐるみの教育を推進している。

推進体制　令和６年度：

日詰小学校教職員 34 名

日詰小学校学校運営協議会 10 名

日詰小学校学校運営協議会事務局（地域学校協働チーム）４名

予算等　50,000 円（令和６年度）

1　岩手県紫波町の概要

人口	32,684 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職員数	179 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総面積	238.98 ㎢	令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1　紫波町　位置図

出所：紫波町ホームページ

２　取組の背景・目的

（1）取組の背景と経緯

岩手県紫波町立日詰小学校では、令和４年４月１日に学校運営協議会を設置。学校運営協議会には、PTA 会長や商工会長、商店街会長、公民館長など多様な地域人材ら 10 名（加えて教職員も含む構成）である

令和４年度第１回学校運営協議会において全国学力状況調査の結果から「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「自分にはよいところがある」の肯定的回答が低いという課題が学校から示された。これを受け、学校運営協議会で熟議を深め「児童自身が自分の未来を主体的に考え、自信をもって未来への展望を持つ児童の育成に向けた具体的な取組を進める」ことを目指し、令和４年 11 月 11 日５学年を対象に「平井邸学習会」を、委員の企画運営、仲立ちにより実施した。その取組内容や成果と課題について学校運営協議会で熟議を重ね、令和５年度以降の教育課程を「社会に開かれた教育課程」の観点で見直し、子供たちが学校や地域に愛着と誇りをもち、夢や未来を切り拓こうする子を育てること（地域への愛着・自己肯定感の向上）を教育目標に掲げ地域ぐるみの教育を推進することにした。

地域学習「花の虹タイム」は、令和４年は試行的に２単元で始められたが、学校運営協議会の熟議を経て、具体的な取組を地域学校協働チーム（紫波町の地域学校協働活動を進める実働組織で、委員も必要に応じて参加している）が内容を充実させ、令和５年度には９単元に拡大され、令和６年度はさらに３単元（＋親子参加行事６回）を計画実施する規模に系統化されている。また、地域学習は６年生の総合的な学習の時間（卒業研究）とも一体化しているとともに、岩手県立大学生にも関わっていただきながら、児童が「自分の住む町」や「自身の将来」について考える長期課題となっている。

（2）現在の取組

現在、「花の虹タイム」は全学年に展開され、単元ごとに地域の人材や大学生らを講師に迎えて学習を行っている。令和５年度には合計９単元、令和６年度は３単元を実施したほか、校外学習や宿泊学習など親子参加の行事も併せて実施されている。各単元の実施にあたっては、事前に校長、CS コーディネーター、学年担任が地域の方（学校運営協議会委員を含む）と協議を行い、地域講師や大学生の意見を取り入れながら学習内容を検討する仕組みが定着している。こうした協議を通じて、「社会に開かれた教育課程」として地域学習が系統的に編成され、児童の学習意欲向上にもつながっている

３　取組内容

(1) 学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的取組

日詰小学校では学校運営協議会で熟議されたことを中心に、地域学校協働チームが具体的な地域学校協働活動を展開することで、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的取組を推進している。委員は年度ごとに新旧交代しながら、継続的に熟議を深めるとともに、地域学校協働活動に積極的に参画している。協議会「熟議」ではCSコーディネーターがファシリテーターとなり、特に「花の虹タイム」の内容改善や活動計画について議論を重ねている。委員らは自ら地元の情報や課題を提供し、地域学校協働活動への参画を分担することで、「花の虹タイム」がより充実するよう貢献している。

令和６年度からは岩手県立大学生もゲストとして協議会に参加し、６学年の地域学習について大学からの視点を加えたり、地域学校協働活動に加わり「商店街学習」での店舗選択や交渉、６年生へのプレゼンテーション、当日の引率支援等に自ら参画したりすることで議論の幅が拡がっている。このように、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体化していることが、この取組の大きな特徴である。

(2) 学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的取組

「花の虹タイム」は地域の資源を活用した学習として位置づけられており、全ての単元前後で学校と地域の関係者が連携してプログラムを作り上げている。例えば各単元の前には、校長やCSコーディネーター、学年担任が委員とともに地域講師や大学生と協議を行い、具体的な学習内容や指導法を検討するプロセスが通常化されている。このような体制により、単発的な講師派遣型に終わらず、地域の期待やニーズを反映したカリキュラムが編成されている。令和４年度に２単元で始まった地域学習は、令和５年度には全学年９単元、令和６年度には３単元＋親子行事６回という計画にまで発展し、地域学習自体を体系化して実施できるまでになっている。

(3) 商店街における取組例

最も代表的な事例が、６年生による「商店街学習」である。紫波町日詰地区の商店街で働く人々の仕事や地域への思いを学ぶこの単元では、岩手県立大学総合政策学部の三好ゼミ生が主体的に協力し、地域と学校の橋渡し役を果たした。

具体的には三好ゼミの大学生たちが事前に各商店を調査し、その情報を基に児童へプレゼンテーションを行い、体験店へのグループ振り分けや当日の引率・学習サポートを担当した。2024年11月のフィールドワークでは、大学生が日詰商店街の11の店舗に児童を案内し、商店主へのインタビューや仕事の体験をサポートする形で実施された。

このような取り組みを通じて、児童は地元商店街の人々から生きた話を聞くとともに、将来の働き方や地域づくりについて考える機会を得ている。

また、商店街の方々からも「関わった大人の方が感化されている。『まちづくり』とゆう大きなテーマの『一つの手段』となっている」「おかげでまちが明るくなった。いつか地元で活躍してほしい」などの声が多くあるなど、地域が元気になる活動へと発展している。このように「学校を核とした地域づくり」に向けて、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体的に取り組むことが、持続可能な地域づくりへとさらに発展していくことが期待できる

図表 ２　商店街における地域学習の概要

１　日時　　2024 年 11 月 20 日（水曜日）9：30～12：00

当日の行程	9：30	事前確認
	9：40	日詰小学校発
	10：00	日詰商店街着　→　体験学習
	11：00	体験終了　→　日詰商店街発
	11：20	日詰小学校着
	11：25	まとめ

２　場所　　日詰小学校・日詰商店街

３　参加者　日詰小学校６年生　59 名

岩手県立大学総合政策学部・三好ゼミ 11 名　＋　教員１名

商店 11 店舗（岩手日報紫波センター、熊谷種苗店、鈴徳商店、タゴマル、天狗寿司、畠山写真館、原スポーツ、平井邸、藤屋食堂、ミルクホールマイカ、ヨコサワキャンパス）

写真：商店への事前取材（県大生）

写真：商店紹介資料作成の打合せ（県大生）

写真：昨年度の地域学習（日詰小学生の生徒）

出所：紫波町立日詰小学校・岩手県立大学プレスリリース

（4）取組の推進体制

推進体制としては、副校長を事務局長とする学校側スタッフに加え、CS コーディネーターが全体の調整役を担っている。学校運営協議会には PTA 会長や商工会長、公民館長らが参加し、地域の人的ネットワークが活動を支えている。

委員は１年毎に構成されており、「花の虹タイム」を中心とする地域学校協働活動に委員が主体的に参画することで、委員自ら地域を元気にする様々な地域学校協働活動を推進する原動力となり、学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的取組が進んでいる。

大学との連携については、岩手県立大学と連携協定等はないものの、総合政策学部・三好ゼミの学生らが継続的に協力しており、地域学校協働活動を実質的に担う役割を果たしてい

る。町教委や小中連携協議会も取組を支援しており、地域における協議会運営や学習内容の検討など全般を後押ししている。とくに紫波町では、年１回「学校運営協議会推進シンポジウム」を全町民対象として実施し、各学校の取組状況の情報交流などを行っている。

4　成果・課題

(1) 成果

この取組を通して児童の意識・態度面で顕著な成果が報告されている。学校運営協議会の熟議と学習実施の成果として､児童の｢地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「自分にはよいところがある」という意識が向上し、県平均を超える比率となった。集団討議・発表会などを重ねる中で、子どもたちの自己肯定感や地域貢献意識が高まり、日頃から学校や地域に対する愛着を深める姿が見られるようになった。

地域全体でも、商店街学習や公開授業に多くの大学生や地域住民が参画・参観するようになるなど、学校活動に対する関心が高まっている。さらに、「花の虹タイム」を通じて多様な活動が展開されることで、住民同士や世代間の交流が生まれ、地域ぐるみで子どもを育てる機運が高まっている

図表 3　地域学習（花の虹タイム）を通じた効果

	指標１		指標２	
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（肯定的回答）		自分にはよいところがあると思う（肯定的回答）	
	本県	本校	本県	本校
R4	58.0%	54.0%(−4.0)	77.0%	62.0%(−15.0)
R6	83.6%	87.0%(+3.6)	80.6%	84.1%(+3.5)

出所：文部科学省『令和６年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰 被表彰取組事例集』

(2) 課題

今後の課題として以下の３点があげられる。

ア　新たな地域学習の訪問先や講師の拡充

「花の虹タイム」の取組は、上記のように地域や関係機関団体の支援や協力を通じて、全学年素晴らしい成果をあげてきている。さらに、学習内容の充実や持続可能な地域を発展させるためには、これまでの関係性を継続しつつ、「組織」にとらわれず、新たな訪問先や講師を拡充していくことが必要である。

イ　小中連携した「地域学習」の展開

日詰小学校卒業生は、紫波第一中学校に全員進学するが、紫波第一中学校には、ほぼ同規模の赤石小学校と古館小学校からも進学している。そのため、中学校における地域学習を効果的に展開するために、小学校３校での地域学習で学ぶべき共通認識や、小中一貫教育の考えのもと、小中連動した「地域学習」の系統性をさぐる必要がある。

ウ　「学校を核とした地域づくり」の共通認識

現在の取組状況をみると、一部にまだ「学校支援活動」自体が目的化し、本来の目的である『「地域住民」のつながりを強める』ことが十分になされていない傾向がある。本来の目的を実現するために、地域学校協働活動を進めることが持続可能な地域づくりにつながることを、実践を通してより多くの地域の方に実感していただくことが必要である。

関連・参考資料

紫波町立日詰小学校「虹の花タイムカテゴリーアーカイブ」
http://www.hizume.shiwacho.ed.jp/?cat=5
文部科学省『令和 6 年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰 被表彰取組事例集』
https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/R6hyousyou_jireisyu.pdf
紫波町立日詰小学校・岩手県立大学プレスリリース：『日詰小学校で「自分の住む町」や「自身の将来」を考える地域学習を実施　県大生が日詰商店街で小学生をエスコート』（2024 年 11 月 13 日）
https://www.iwate-pu.ac.jp/information/press-oldindex.html
紫波町ホームページ：
https://www.town.shiwa.iwate.jp/